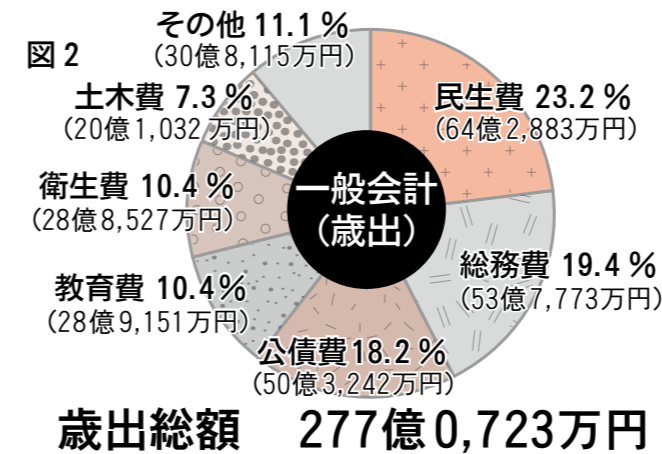
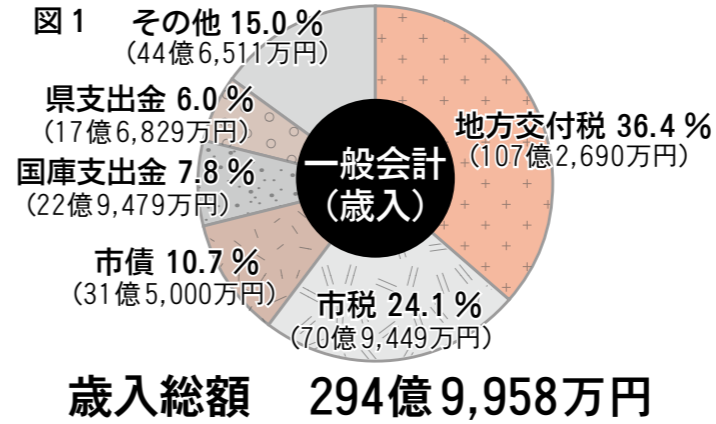


歳出総額は492億円

平成25年度の市の決算が確定し、9月の市議会定例会で認定されました。決算は、1年間にどのくらいのお金が入り(歳入)、どのように使ったか(歳出)を取りまとめたもの。決算をすることで、市の財政状況の分析ができます。一般会計に特別会計と企業会計を合わせた市の歳入総額は、513億6932万円。歳出総額は491億9087万円。歳入と歳出の差し引き額は、21億7845万円の黒字となりました。今回は、決算の概要についてお知らせします。

□問い合わせ 財務課(内線352)

◆一般会計



一般会計の決算状況

一般会計の歳入歳出差引額は、17億9235万円で、平成26年度へ予算を繰越した事業のための財源2億0206万円を差し引いた実質収支額は、15億9029万円の黒字です。歳入では、地方交付税が107億2690万円で歳入総額の36・4%を占め、市税が70億9449万円(24・1%)、借金の市債は31億5000万円(10・7%)でした。その他、市の事業に対する国や県からの補助金として、国庫支出金が22億9479万円(7・8%)、県支出金が17億6829万円(6・0%)の収入でした。



▲中野方小学校に浄水機能付きのプールを整備

◆企業会計

水道事業会計

□事業概要
給水件数: 11,056件
総配水量: 4,283,324 立方メートル

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	8億6,196万円	収入	1億3,187万円
支出	7億9,898万円	支出	2億4,373万円

病院事業会計

□市立恵那病院
外来患者数: 66,942人

□国保上矢作病院
外来患者数: 25,310人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	37億3,233万円	収入	4億1,498万円
支出	36億6,218万円	支出	4億3,113万円

介護老人保健施設事業会計

□事業別利用者数
入所事業: 31,377人
短期入所事業: 2,612人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	4億6,038万円	収入	2,280万円
支出	4億8,529万円	支出	3,436万円

国民健康保険診療所事業会計

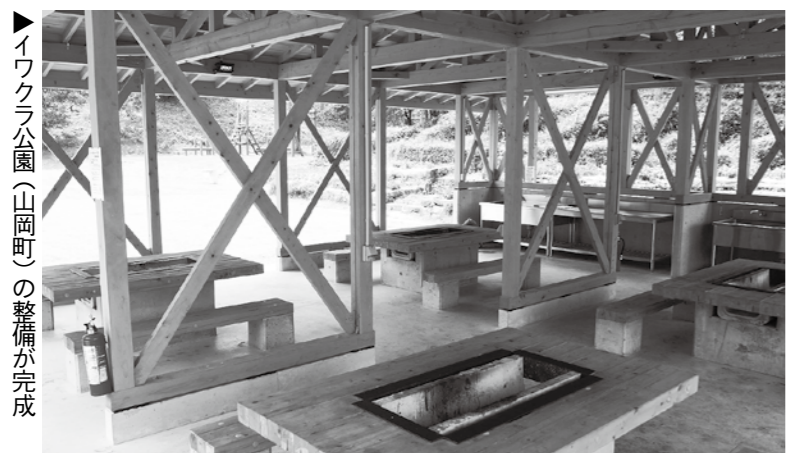
□6診療所
外来患者数: 44,893人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	6億3,886万円	収入	3,589万円
支出	6億1,864万円	支出	4,824万円

介護老人福祉施設事業会計

□事業別利用者数
入所事業: 21,035人
短期入所事業: 3,846人

収益的収支決算		資本的収支決算	
収入	3億9,727万円	収入	2,063万円
支出	4億1,340万円	支出	2,077万円



イワクラ公園(山岡町)の整備が完成

◆特別会計

特別会計	歳入	歳出	歳入歳出差引額
国民健康保険	58億7,669万円	56億1,087万円	2億6,582万円
介護保険(事業勘定)	52億7,507万円	51億6,420万円	1億1,087万円
(サービス事業勘定)	2,233万円	2,233万円	0万円
簡易水道	13億8,745万円	13億8,372万円	373万円
農業集落排水	2億8,833万円	2億8,826万円	7万円
駐車場	3,137万円	3,137万円	0万円
公共下水道	16億5,799万円	16億2,511万円	3,288万円
遠山財産区	81万円	64万円	17万円
上財産区	96万円	55万円	41万円
後期高齢者医療	6億1,177万円	5億9,989万円	1,188万円
計	151億5,277万円	147億2,694万円	4億2,583万円

借金(市債)の状況

●市民1人に、約101万円の借金
一般会計、特別会計、企業会計の借金の総額は537億6,547万円で、昨年度と比べて15億6,996万円の減額となりました。借金を市民1人当たりで換算すると、100万8222円となり、平成26年3月31日現在の人口5万3327人

◆市債

市債の現在高	537億6,547万円
一般会計	354億8,886万円
特別会計	146億8,017万円
企業会計	35億9,644万円

貯金(基金)の状況

●貯金は市民1人当たり約34万円
市の貯金の総額は180億8304万円で、昨年度と比べて11億9074万円の増額となりました。

一般会計に属する基金		160億2,524万円	
地域振興基金	35億0,748万円	病院施設等整備基金	29億9,522万円
財政調整基金	27億4,925万円	公共施設整備基金	20億6,736万円
減債基金	23億2,336万円	地域福祉基金	9億8,553万円
市民のまちづくり基金	5億2,616万円	地域づくり基金	1億0,247万円
地域づくり基金	1億0,247万円	過疎地域自立促進基金	1億1,119万円
図書館基金	437万円	その他	6億5,285万円

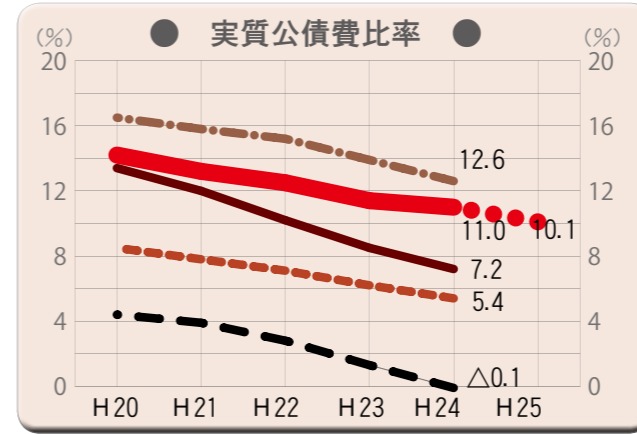
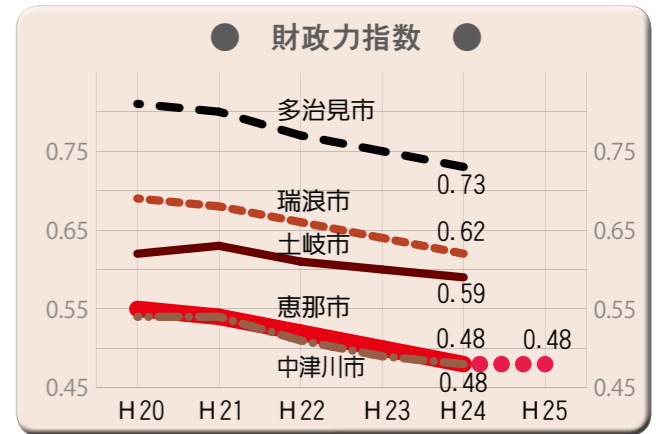
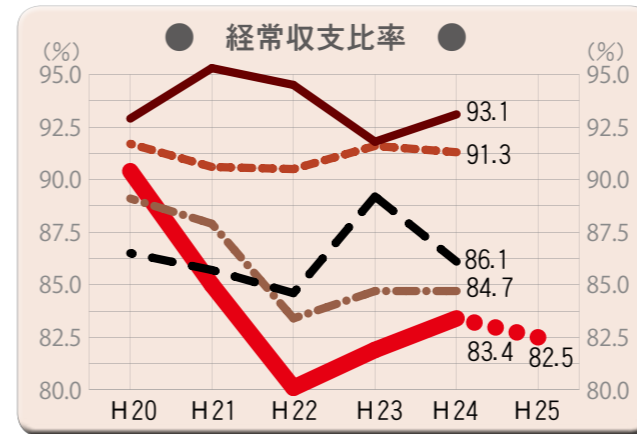
◆基金

特別会計に属する基金		6億0,212万円	
国民健康保険給付基金	2億5,702万円	介護保険給付基金	7,207万円
駐車場施設整備基金	2億4,163万円	その他	3,140万円
企業会計に属する基金		1億7,540万円	
積立金(水道事業)	4,000万円	積立金(病院事業)	6,910万円
積立金(介護老人福祉施設)	4,300万円	積立金(国保診療所)	2,330万円
定額の資金を運用する基金	12億8,028万円	土地開発基金	9億7,368万円
奨学資金貸与基金	2億6,752万円	その他	3,908万円

近隣市との比較

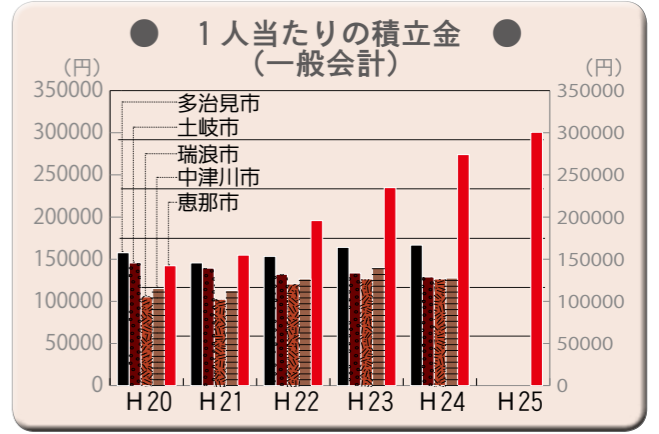
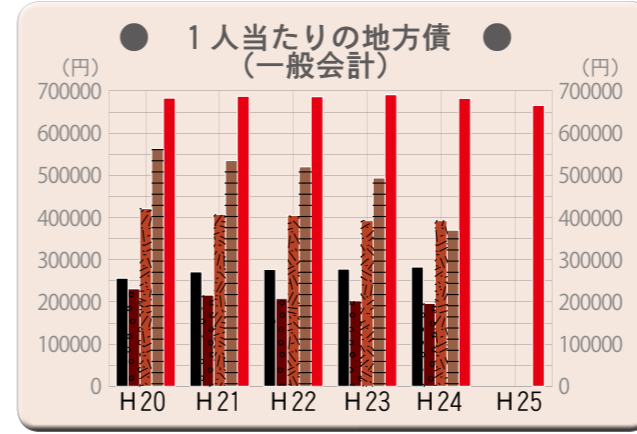
97円ある状況です。市民1人当たりの貯金が33万907円ある状況です。本市の財政状況を客観的に確認できるように、東濃地域の各市と比較しました。本市の主な財政状況の過去6年間の推移と、東濃地域の各市は、平成24年度までの過去5年間の財政状況を、次ページのグラフで示しています。

多治見市・土岐市・瑞浪市・中津川市・恵那市の財政状況の比較



用語の説明

- ▶ 財政力指数＝標準的な行政サービスを行うのに自己財源でどの程度を賄えるかを示す数値で、1.00に満たない分は地方交付税で補てんされることになる。
- ▶ 経常収支比率＝毎年定期的に入る収入に対して、毎年使い道が決まっている経費がどの程度かを示す数値。この割合が低いほど自由に使える財源が多くあることを示す
- ▶ 実質公債費比率＝標準財政規模に対して市が負担する借金の返済がどの程度かの割合を示す
- ▶ 1人当たりの地方債＝一般会計の市債を人口で割った金額
- ▶ 1人当たりの積立金＝一般会計の基金を人口で割った金額



指標名	恵那市の数値	早期健全化基準	財政再生基準
健全化判断比率	—	12.58%	20.00%
実質赤字比率	—	17.58%	30.00%
実質公債費比率	10.1%	25.0%	35.0%
将来負担比率	17.8%	350.0%	—

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は黒字の場合「-」で表します

指標名	会計名	恵那市の数値	経営健全化基準
資金不足比率	水道事業会計	—	20.0%
	病院事業会計	—	20.0%
	介護老人保健施設事業会計	—	20.0%
	国民健康保険診療所事業会計	—	20.0%
	簡易水道事業特別会計	—	20.0%
	農業集落排水事業特別会計	—	20.0%
	公共下水道事業特別会計	—	20.0%

※資金不足がない場合「-」で表します

財政健全度の状況

平成20年4月1日に一部施行された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」により、算定と公表が義務付けられた実質赤字比率や連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の四つの指標の健全化判断比率と、公営企業会計の資金不足比率は次の通りです。実質公債費比率は0.9ポイント、将来負担比率は18.5ポイントと、それぞれ昨年度から改善しました。

バランスシートの概要

バランスシートは、市の資産と負債の資産をどのような財源(負債、純資産)で賄ってきたかを示したものです。

一般会計における市の総資産は、約1469億円。道路や公共施設などを整備するために発行する地方債などの負債総額は、約414億円。現在までの世代が税金を支払って、すでに整備された純資産は、約1055億円となります。また市民1人当たりに換算すると、資産は約275万円で、負債が約77万円、純資産が約198万円となります。

行政コスト計算書の概要

1年間の行政活動のうち、福祉サービスやごみの収集に係る経費など、資産形成につながらない行政サービスに伴う支出と、使用料や手数料などの収入を示したものが行政コスト計算書。企業会計でいわれる損益計算書に相当するものです。

資産形成につながらない行政サービス提供に掛かった費用は、約220億円で、使用料など受益者が負担した約7億円を除くと、純粋な行政コストは約213億円となります。これを市民1人当たりで換算すると、約40万円の費用が掛かったこととなります。

バランスシート (百万円単位)

資産の部	金額	負債の部	金額
公共資産 学校や道路の建設、土地購入などに使われたお金の総額(うち未使用資産)	1,231億8,900万円 (4億9,800万円)	固定負債 翌々年度以降に支払いや返済が行われる予定のもの	376億2,000万円
投資など 関係団体への出資金や公共施設整備ほかに蓄えているお金	167億5,700万円	流動負債 翌年度に支払いや返済をするもの	37億8,400万円
流動資産 現金や貯金、必要に応じて現金化することができる積立金、市税などの未収金(うち歳計現金)	69億4,700万円 (17億9,200万円)	合計	414億0,400万円
資産合計	1,468億9,300万円	純資産の部	金額
		国と県からの補助金	219億7,400万円
		一般財源などの自主財源	835億1,500万円
		合計	1,054億8,900万円
		負債及び純資産合計	1,468億9,300万円

純資産変動計算書の概要

項目	金額
期首純資産残高	1,036億4,300万円
(純経常行政コスト)	△213億0,800万円
(一般財源)	199億2,000万円
(補助金)	40億6,600万円
(臨時損益など)	△8億3,200万円
期末純資産残高	1,054億8,900万円

行政コスト計算書 (百万円単位)

経常行政コスト	金額
人にかかるコスト 人件費、退職給与引当金など	42億2,000万円
物に係るコスト 電気料、修理など維持補修費など	91億3,100万円
移転支的コスト 高齢者や児童などへの手当(扶助費)、団体への補助金、特別会計への拠出金など	82億2,900万円
その他コスト 市債の利子、時効により納入されなかった税金(不納欠損)など	4億5,600万円
合計	220億3,600万円
経常収益	金額
使用料・手数料	6億4,900万円
分担金・負担金・寄付金など	7,900万円
合計	7億2,800万円
(差し引き) 純経常行政コスト	213億0,800万円

資金収支計算書の概要

項目	金額
期首歳計現金残高	15億円
(経常的収支)	87億7,400万円
(公共資産整備収支)	△21億1,800万円
(投資・財務的収支)	△63億6,400万円
期末歳計現金残高	17億9,200万円

財務的収支では、約64億円の赤字となつています。これらには、経常的収支、すなわち一般財源で賄われていることが分かります。

なつています。これらには、公共事業に伴う資金の使途と、財産整備収支では約21億円、投資活動や借入金返済による資金収支を示す投資・

純資産変動計算書の概要

純資産変動計算書は、バランスシートの純資産(資産と負債の差額)が1年間にどのように増減したかを示したものです。

平成25年度末の純資産残高は約1055億円となり昨年度末と比べ

資金収支計算書の概要

性質の異なる三つの区分に分けて、1年間の現金の流れを示したものが、資金収支計算書です。

日常の行政活動サービスに係る資金の経常的な収支は、約88億円と

決算概要の詳細は、市のウェブサイト(<http://www.city.ena.lg.jp/>)で閲覧できます。